

地域に根差した介護福祉士を目指して

よりた ななみ
依田 七海さん (北海道介護福祉学校 2年)

枝幸町出身。枝幸高校を卒業後、小学校の頃から憧れていた介護の道を志そうと、栗山町での学びを選びました。「進学を決めたのは資格取得を助言してくれた高校の先生や、オープンキャンパスで介護学校の雰囲気の良い肌で感じたのがきっかけです」と話します。

7月に2年次最後の実習が終了。介護の現場で働く職員たちの姿を見て「忙しい中でもコミュニケーションの場を常に大切にしていて、まだまだ私は消極的な面があるので、学んでいきたい」と振り返ります。



部活・勉強に全力、悔いなく過ごす

きたま よう
北間 耀さん (栗山高等学校 2年)

北間さんは、男子バスケットボール部に所属。2年生2名、1年生2名、マネージャー2名で練習に励んでいます。小人数ながらも和気あいあいとした雰囲気です。

2年生は練習メニューの考案や指示出しなど、リーダーとして日々奮闘中。「初心者の1年生たちの成長に驚いていいます。みんなが会話のしやすい雰囲気を作っていた」と、後輩たちのことを想う姿勢が垣間見れます。

Report

広報のしごとを体験

7/13.14 栗山高校就業体験 (インターンシップ)

＼ 私たち、新米広報担当です ／



わかばやし あみ
若林 愛美さん

栗山中出身。役場にお堅いイメージがありながら、広報の仕事を楽しみにインターンを希望。将来に活かせるように頑張りたいと話していました。



かわしり りな
川西 里奈さん

南幌中出身。広報関係の仕事に興味があり、アルバイトやボランティアの経験で培ったコミュニケーション能力を活かす場としてインターンを希望。



きたがみ まい
北上市 麻衣さん

栗山中出身。生徒会活動で、企画運営や進行の経験もあり、実際に仕事することのやりがいを感じたいと思い、インターンを希望。



①谷田製菓で取材②町子育て支援センター「スキップ」のインターン生を取材③特別養護老人ホーム「くりのさと」で取材④カメラ撮影の練習で訪れた栗山公園の花 (すべてインターン生が撮影したものです)

今回の活動の内容

(北上市さん)

私たちは栗山町役場のインターンシップに訪れ、広報の仕事を経験しました。初日にカメラの使い方や撮影の練習で栗山公園とハサンベツ里山に行き、2日目は取材を行い、町ホームページに掲載する記事を書きました。写真を撮ることや聞くことを考えて実際に取材することにやりがいや楽しさを感じました。

広報の仕事を経験して

(若林さん)

カメラの撮り方で、印象が全然変わることには驚きました。練習で景観を撮るのも楽しかったですが、自然体の人の写真を撮る方が、楽しかったです。

また、取材をすることで、多くの地域の方と関わり、話ができて良かったです。記事を書くことは、使う言葉や文法などを考え、人に伝える文章を書く大変さを知ることができました。

今回の経験を将来に

(川西さん)

もともと広報関係の仕事にとっても興味があったので、今回学んだことや体験したことを活かして、将来の仕事を考えていきたいと思っています。

また、記事の作成で学んだ語彙力を受験などにも活かしたと思います。2日間ありがとうございました。



皆さん、2日間ありがとうございました。(広報担当より)

作日当の
高生やこ
栗記事は
様子は



皆さんの悩み、お聞きします

ケアラーの窓から Vol.8

「話すコト」の大切さ

相談する・・・といっても、何を話していいのかわからないときもあると思います。まずは日々の生活について少し詳しく話してみませんか？

声に出して「話すこと」で、今まで気づかなかった自分の気持ちや考え方に気づくことができるかもしれません。その中で「実は困っていること」を一緒に探しましょう。こころの健康を保つために「話すこと」は大切です。

- 【相談窓口】 町福祉課、町社会福祉協議会
- 【相談ダイヤル】 ※①～③の窓口は平日 8:30～17:15 です。
- ①子どもの相談 町子育て支援センター「スキップ」 ☎ 72-1280
 - ②高齢者の相談 町地域包括支援センター ☎ 73-2255
 - ③障がいの相談 町福祉課福祉・子育てグループ ☎ 73-2222
 - ④ケアラーの相談 町社会福祉協議会（専用ダイヤル）
☎ 72-2121（月・水・金/午前）



町地域包括支援センター
そがわ まゆみ
十河 真弓 保健師



町のケアラーの
最新情報はこちら

栗山の史跡・モニュメントをひも解く

令和4年3月に町史『栗山町史第三巻（平成史）』が刊行され、「町史編さん室」としての業務は終了しました。広報くりやまでの毎月掲載していたコラムも、ご愛読いただきありがとうございました。

そして・・・これからは新しい資料の発掘を中心に「町史資料調査室」と名前を変え、栗山の歴史・文化に関わる情報などを発信していきます。

テーマは、栗山の史跡とモニュメント、彫刻やオブジェなどの紹介。辞典では、モニュメントとは「政治、社会、文化的な事件や人物を記念するために造られる建造物・碑・像など」とされています。町内には、東北帝国大学農科大学当時の「成壘記念碑」、米坂ヒデノリ氏の彫刻、開拓記念公園のオブジェを含め、たくさんの歴史財産や作品が残されています。

普段はあまり気に留めることもない、まちや施設の風景に溶け込んだ史跡や彫刻作品を、改めて見直す機会となれば幸いです。

町史の隠れ家 vol.1



町史資料調査室
研究員 青木 隆夫



▲ 駅前商店街のマスコットオブジェ「アリパー」

栗山公園 だより Vol.173

【最新情報を簡単アクセス】

★栗山公園公式ホームページ
<http://t-daria.com/parktop>



アンケートに ご協力お願いします



毎年、来園者の皆様を対象に、アンケートのご協力をいただいています。「こんなのがあったらいいな」ここを直してほしい！」などなど、ご意見やご感想を聞かせていただくと嬉しいです。

皆さんのアンケートをもとに、より良い公園づくりを目指しています。少しずつではありますが、お客様の声を実現できるよう、取り組んでいきたいと思っています。

栗山公園へ足をお運びの際には、ぜひ、スタッフまでお声かけ下さい。お待ちしております。

【期 間】 7月23日(土)～8月31日(水) 10:00～17:00

【受 付】 なかよし動物園

アンケート用紙・ペグシル・バインダーを用意しています。○印をつける簡単なアンケートです。ご意見やご感想、良いアイデアなど自由に記入するスペースもありますので、ぜひ、お聞かせ下さい。

【問い合わせ】 栗山公園案内所 ☎ 72-0706
指定管理者 株式会社たかはしダリア

No.72

新しい力で栗山を元気に 地域おこし協力隊です



情報発信プランナー
もちづき たかふみ
望月 貴文 隊員



協力隊の活動は
Facebook で発信中！

アナログとデジタル、それぞれ本質に迫る情報を

6月に愛媛県内子町で「全国広報広聴研究大会」が開催されました。全国からの猛者が集まるこの大会に私も町広報担当職員と参加。パネルディスカッションでは全国のトップを走る5人のプロから、広報に対する情熱や愛が語られました。

それぞれの議論から「住民のために良い広報誌を書きたい」という思いを垣間見ることができ、彼らの話を聞いていると「広報誌は見えない努力の結晶であり、妥協無きこだわりの産物」であることを大会を通じて実感できました。

私が運営している町公式note「くりやまのおと」も7月に1周年を迎えました。自らnoteを通じて情報発信をする自治体が増えて

おり、デジタルの世界では住民や自治体職員による生の情報が発信されている場面も多くあります。

昨今、「情報のデジタル化」が叫ばれていますが、アナログの広報誌がこれからも必要な情報誌であることには変わりありません。情報発信プランナーとして、アナログ・デジタル両面から栗山町の本質に迫る情報を発信できるよう、町広報担当職員と連携していきます。



▲ 研究大会の様子（愛媛県内子町）